

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第336号
平成27年1月8日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

変わらないために、変わり続ける

校長 鈴木 隆志

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も、どうぞよろしく願いいたします。今年は「未年」です。「未」は象形文字で、木の枝葉が茂った様を表しています。「未」には、豊作の願いが込められています。また、「羊」は群れをなすことから、家族安泰やいつまでも平和に暮らすことを意味しています。

未年に込められた願いと同じく、今年も光八小は、人との関わりを大事にして、豊かな心を育む教育を実行していきます。今、学校や教師は、急ぎと効率の教育に陥っていると言われていています。子供たちの現状や教師の多忙さなどから、マニュアル化した画一的な成果主義に陥ってしまっているといけないと思っています。一人一人にきちんと向かい合い、人との関わりを大事にしながら子供を育てていくことが、私たちの使命です。

「までい」という言葉があります。「までい」とは「真手（両手が揃った状態）」のことであり、『手間隙を惜しまず』『丁寧に』『心を込めて』『時間をかけて』『じっくりと』といった意味が込められています。学校や教師も、「までい」の心を忘れてはいけません。光八小は、「までい」の心で一人一人を大切にし、『笑顔かがやく光っ子 みんなで育てる光っ子』を目指していきます。

光八小が大切に思う思い（心）は、広い心で相手を包み込み、受け入れるという「包容」です。「包容」の思いとは、『ちがいを認めて 共に生きる』ということです。「ちがい」を考える上で三つのキーワードがあると先輩から教わりました。①アプリヴォアゼ、②セルフ・エスティーム、③レジリエンスの三つです。聞き慣れない言葉ですが、「アプリヴォアゼ (apprivoiser)」とは、「絆を作る、仲良くなる」といった意味です。「セルフ・エスティーム (self-esteem)」とは「自尊感情、健全な自尊心」、「レジリエンス (resilience)」は「回復力、立ち直り力、折れない心」という意味です。いずれも「包容」の思いには欠かせません。

『変わらないために、変わり続ける』とは、博多ラーメンの大手チェーン店経営者の言葉です。私も冬休みに、池袋のお店でラーメンを食べてきました。なるほど、変わらないおいしさです。客の舌の感覚は、食生活の変化等に伴って、年々歳々変わっていきます。「おいしい」と変わらぬ評価を得るためには、客に合わせて少しずつ味を変えていかなければなりません。言い換えれば、「大切な価値を守るためには、成長し続けなければならない」ということでしょう。

光八小のよき伝統と校風を守り続けるためには、私たちも常に成長していくことが必要です。今年は、「包容」をキーワードとして、成長し続ける「チーム八小」でありたいと思っています。光八小も、『変わらないために、変わり続ける』学校となっていきます。

今年も、地域と共に歩み、保護者・地域の皆様から信頼される光八小を目指し、「チーム八小」一丸となり、「包容」の教育を推進してまいります。昨年同様、温かい御支援、御協力をよろしく願いいたします。